
寄 稿

種子島医療センターの歩みと自分史

社会医療法人 義順顕彰会 会長 田上 容正

種子島の医療と私

私は昭和10年8月26日、父・田上義直と母・京の長男として西之表松島に生まれました。

父は教職にありましたが、伊佐郡大口の女学校に転勤する事になり、国民学校入学直前に大口に転居し大口国民学校に入学しました。戦時色の濃い頃でしたので、節約・質素が重んじられ家庭でも、学校でも、今の子供達には考えられないようなきびしい教育でした。大きくなったら何になるのか？と聞かれたら海軍の兵隊さんになります、と答えていました。

戦争が段々と激しくなり、戦況が思わしくなくなり、食糧事情が極端に悪くなり、とても、ひもじい思いをした事は私達と同世代の人々が皆んな同じ経験をした事だと思います。

衣服も履物も乏しく裸足で学校に通いましたが、霜柱が立ち、足が冷たく凍傷にかかったり、痛くてたまりませんでした。「お国のため」を合言葉にじっと我慢して生きていました。

昭和20年8月15日、国民学校4年生の夏、終戦を迎えることになりましたが大して重大事だとの認識もなくトンボやセミをつかまえたり、川で泳いで魚を採ったりして遊んでいました。

東京、大阪、名古屋方面に空襲に向うアメリカのB29の編隊飛行を眺めたり、帰りのグラマン戦闘機が機銃掃射をすることも時にあり、慌てて逃げ隠れたりする事もありました。

鹿児島大空襲の時、夜遅く、大口からもその炎が夜空をこがす光景を目にしたことが鮮明に記憶に残っています。

この頃種子島からの学童疎開があり、伊佐郡を中心に周辺集落のそれぞれの家庭に預けられましたが、私の家には親戚の平瀬陽一君と二人の姉妹がやって来て、急に大変賑やかになり嬉しかった事を懐かしく思い出します。暫く我が家に同居していましたが皆さんが共同生活をする事になり、大口中学校のすぐ上の尾曲という公民館みたいなところに引っ越して行きました。

戦争が終わり、いつ学童疎開の人々がどのようにして大口を離れ、種子島に帰って行ったのか、その辺の事情は全く知りません。

私の家族は父、母、姉に私と3人の妹の7人家族でしたが、教職を離れ種子島で農業をするのだと聞かされ、昭和20年11月3日鹿児島経由で一泊の後、翌朝8時に橋丸に乗り込み約12時間のち、午後8時頃種子島に着いたことは鮮明に憶えています。祖父がまだ健在で私達を出迎えてくれ、沖に停泊した船から、ハシケに乗り上陸しました。

ずた袋をかついで暗い夜道を現在の種子島中学下の坂道をよたよた歩いてやっと家に辿り着きました。近所の人が出迎えてくれ、美味しい白米の御飯を食べさせて貰いました。

電気はなく暗いランプの下で死んだように眠りこけたのでしょうか。

忘れはしません子供心に明日からは学校にも行かなくてよい、遊んでやろうと楽しみにしていましたが、翌朝11月4日に父に叩き起こされ、今日から学校に行くんだとせかされ榕城小学校4年生の転入生としての第一目目を迎えました。

あれから71年が過ぎましたが早かったようでもあり、また遅かったようでもあり何と表現したらよいのか戸惑っています。

楽しかった事、嬉しかった事、悲しかった事、苦しかった事と沢山あり、よくまあここまで生き延びて来られたと感慨ひとしおです。

小学校の残り三年間と中学校の三年間よく遊びもしましたが、少しは勉強もしたのではなかろうか。印象に残っている先生の名前は殆ど浮かんで来ません。

榕城中学校3年生の時、西村平君のお父さんとラーサール高校の教頭先生が鹿児島第一中学校の同窓生だったということで生徒募集に来られ、私達も受験してみようと言うことで西村平君、仙田敏夫君の3名が入学できました。

高校では相も変わらず勉強はせず、テニスやバレー、卓球などに一生懸命でとても楽しい三年間でした。

昭和32年、やっとの思いで熊本大学医学部に入学できました。六年後に卒業でき鹿児島大学病院で一年間のインターン生活を終え、医師免許を取得できました。

昭和39年、鹿児島大学病院第二内科に入局すると同時に生化学教室の大学院学生となり、臨床を勉強するかたわら実験を重ね、四年後には「各種胃疾患における胃液分泌動態に関する研究」で学位論文を書き上げ、医学博士の資格を取得できました。

それから約一年間、宮崎県えびの町立病院に御礼奉公として勤務し、実務を勉強しました。

昭和44年12月8日、西之表松島の実家の隣に14床の診療所「田上容正内科」と看板を掲げました。

私は少年時代、種子島の花里の浜の海岸で泳いだり魚釣りに興じましたが、その時大隅半島にかかる雄大な積乱雲を眺めながら、いつの日か医師になり種子島の病める人々のお役に立ちたいと心ひそかに希望に夢をふくらませていました。

むくむくと空に立ち登る入道雲 これ志 少年の日の

この短歌は野間の教職であられた石堂氏明先生のものですが、この歌がとても好きで、少年の日の夢と現在の医師としての気持に何ら変わることはありません。

第6節 短歌

病院点描

【「華」に掲載 平成19年6月】

病院の深夜の外はブラックである。
手術室、人工透析室などは戦場である。
死に隣り合わせの危険な作業が、不気味な静けさの中で、黙々と続けられるのである。
死ぬ前にもう一度、鳥の青い空と海を見たいと車椅子で帰省する人もあれば、都合に住む子供の手で産卵を交わねばならぬ、止むなく産卵する人もある。

西風にあおられさめく枇杷樹の下巻き来る受診者の群
出陣きに助を融れて幾重霜 今わの際の親見舞えり
末期ガンなればもう一度歌謡を 見さと帰る車椅子と
琴敷の香が子と小脇に抱きかかえ 夜間診療のドア開け入り来

けいれんし意識なき子にしがみつく 母の眼差し医師我に向く
けいれんが治まりそつと眼を開ける 香が子にドットと くずれ落つ母
黒き血が浄化に赤く還り行く じつと見つめるニール回路を
血圧が下がり顔面蒼白の 患者のもとへ医師走り寄る
麻痺の四肢音楽もなき身寄しげに ベッドの上にて喘ぎいるのみ
人工の肛門通して排泄さる 己が便の色気遣うや白日
癌患者難病者の終末の 疼痛緩和をしきりに思う

599

第6節 短歌

甦れ種子島の産科医療

【「華」に掲載 平成20年5月】

種子島で唯一の産科医が、島の診療を中止しを出行という断れぬ時、それは、46年前、島の開港の門前にはトカゲの船が漂っていた。時が内を駆け巡ったの衝撃に似て、今は、さも何事もなかったかのようだが、産科医の心ならず、日本中の医師不足は深刻であり、危機的状況に陥りつつある。

産科医がこの島から消え行くという、たまたま流れし進しき噂が
もし仮に助のお産が叶わねば 妊婦に向い何と答ふか
子は空この助を担うみどり児を 産めよ産せよ誰もが願えり
助出身の産科医を捜し求めて 今日もまた 電話に手紙に明け暮るる日々
助おもふ産科医師は救あれど 戸惑いており急な話しに

医師会と行政間の連携の 成果がほの見ゆ七月も終わりに
この島に救い主が現れるという報せあり 心は踊り涙そこぼれり
先生は勿論なれど奥さまが助を愛えて助まされおれりその背の君を
八月の残暑さびしい医師会の クローラーの中にあり調印を終ゆ
ドクターを乗せ横づけとなりトッピーは 美しき航路を海面に残して
寒風の中を空港に降り立つ君は神々しくもあり凛々しくもあり
緊急のオベと予定分娩し誕生せし新生児二人元巨の朝に
その名も種子島産婦人科医院オープンに集い来祝いし助人たち
島人の夢を託せしロケットの 打ち上げに似し開院の式は
歴史と文化の果てな島に あまたあれかし新しき生命よ

603

昭和44年、私の開業当時、島には医師が少なく重患や重傷は全て鹿児島県の病院に運んでいました。当時はヘリコプターはなく飛行機は快く患者さんを運んでくれませんでした。患者さんに付添って何回も鹿児島県に行きましたが自分の外来患者さんや入院患者さんを残しトンボ帰りでした。入院患者が急変したらと思うと、とても不安でした。それでも兎にも角にも眼前の患者を優先すべきと考え、鹿児島大学病院や鹿児島市立病院に運びました。

ヘリが飛ぶようになり、風雨の激しい日など黒い雲が垂れ込む中を海上すれすれに飛ぶ機内で、落ちたらどうしようと思うことも度々でした。その度に「この患者と一緒に死んでも構わない。それが医者としての本望ではないか」と自問自答し、家内も家族もきっと納得してくれるであろうと思うと心が安らぎ、患者の容体の把握に集中できる自分を発見できました。

開業時はベッドは14床でしたが外来患者さんが多く、開業後一～二年は一晚に三回も四回も起こされ、翌日は又朝から同じように働かねばならなかったため、白衣のまま待合室のベッドで眠るような状況が続きました。

それでも歯を喰いしばって頑張りました。十年後には弟も帰って来て手伝うようになり、鹿大病院からも応援いただけるようになり、各教室の教授や医局員の理解も得られるようになりました。

この頃人工透析も始めました。そして48床から99床へと、更に202床の田上病院へと増床して行きました。

医療法人義順顕彰会として認可も受けました。義順は私の曾祖父の名前から取ったもので、明治の初期種子島で西洋医学を始めたものです。薩摩の西洋医学の祖ウイリアム・ウイルスに師事したと伝え聞いています。

開業してから二十年後に老人保健施設99床の「わらび苑」も立ち上げ、高齢化社会に向けての受け皿としました。

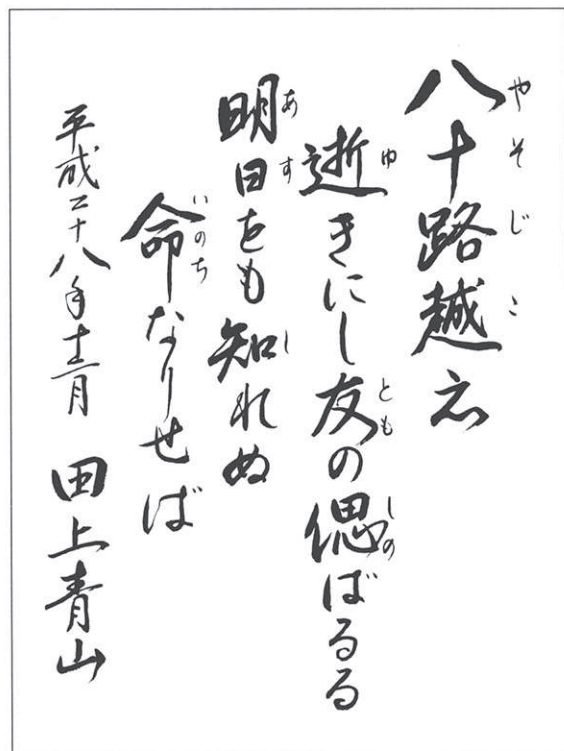
平成26年4月より「田上病院」を「種子島医療センター」に改め、長男が後を継いでくれています。今は人工透析はもとより、開腹手術、関頭手術も出来、眼科の白内障手術も出来るようになりました。

今ではヘリの搬送も極端に少なくなり「鹿児島まで行かなくても島の医療は島で」という私の夢がいくらかは達成されたのではないかと考えています。しかし、まだ充分ではありません。

六年前には精神科の旧有馬病院を引き継ぐことになり、余りにも劣悪で医療環境の悪かった病院を、患者さんが冷暖房の効いたよりよい医療環境で療養して貰えるようにと思い、市内の中学校の統廃合で使用されていなかった住吉中学校跡地に新築移転し、現在130床の精神科病院として種子島・屋久島の熊毛医療圏の精神科医療に尽力しています。

私は現在でも住吉に通い入院患者30名を受け持ち、月に一～二回は当直もし、週二日位医療センターの外来も手伝いながら診療を続けています。

幸い健康に恵まれていて元気ですが、いつかは倒れるときが必ずやって参ります。脳卒中か、心臓疾患か、ガンか認知症で一生を終えねばなりません、「その時はその時でよし」「死ぬ時は死ぬがよかろう」という一体和尚の言葉を胸に秘めて、日々を過ごしています。



短歌「八十路」(田上容正)

故郷に帰ってきて

小児科 岩元 二郎

平成 29 年 4 月、43 年振りに故郷に U ターンしてきました。私は昭和 36 年南種子町島間に生まれ、12 歳で島間小学校を卒業後、鹿児島市で中高 6 年間、東京で 3 年間浪人生活をした後、昭和 58 年に久留米大医学部（福岡県久留米市）に入学しました。平成元年に卒業し、そのまま久留米大小児科に入局、小児科医としての医師人生がスタートしました。その後は福岡県と大分県を中心に久留米大の関連病院を転々とし、平成 17 年 4 月に飯塚病院小児科（福岡県飯塚市）に赴任し 12 年間の勤務を経てこの度故郷に帰ってきました。平成元年卒ということもあり平成のトップバッターとして医師になりましたので、小児科医としてのキャリアは丸 28 年を経たこととなります。

年齢も 50 半ばを迎え、ここ数年間は故郷への思いが強まり、小児科医としての残りの医師人生を種子島でやりたいという思いが日増しに強くなっていました。数年前から田上寛容理事長、高尾尊身院長そして鹿児島大小児科河野嘉文教授にはいろいろとご相談させて頂いていました。これまで当院小児科は鹿大小児科から 2 名の小児科医（平成 29 年 4 月現在摺木伸隆部長、精松貴成先生）が派遣されていますが、河野教授は私の加入を快諾して下さい、人口 3 万の種子島に小児科医 3 名体制となりました。他の診療科医師の需要が高い中、今回無理をお願いして雇用していただきました。

赴任前は当院のホームページを何度も開いては、院長訓話等も含め読み応え、見応えのある内容に心躍らされていました。赴任してからの印象としては、先進医療のできる医療機器が揃っていること、何よりも秀でていると思ったのは電子カルテシステムが簡便で機能的なこと、職員の方々の接遇面においても気持ち良い挨拶を交わしてくれること、数多くの島外、県外の出身者が自ら志願してこの病院に集っていること等、種子島医療センターのレベルの高さを感じています。

赴任して 1 ヶ月を過ぎた時点で診療面において感じたことは、予想していた以上に島の少子高齢化が進んでいるということです。外来の待合は連日高齢者で溢れかえっていますが、小児科外来の前はポツポツといった感じです。病院小児科としての外来と入院を中心とした一般診療のみでは、小児科医 3 名体制では多すぎる印象です。そこで 3 名体制になったメリットを活かすためには以下のようなことを考えています。来院患者は中種子、南種子からの患者が多く、距離的なことを考えると中種子、南種子にも小児診療ができる拠点（田上診療所）を作ること。また院内業務としての一般診療のみならず、予防接種や乳児健診の拡充を含めて母子保健、学校保健等の関連で子育て支援の充実を図るために、医療と行政、教育、福祉の顔の見える連携の構築が必要であると考えています。少子高齢化に関しては、高齢化対策はどこでも喫緊の課題として取り組んでいますが、少子化対策はままならず、子どもは減る一方です。安全安心の子育てがなされ、住みやすい島として、島外からの移住者も増えてくれるように、小児医療の一端を担えればと考えています。次回本誌に寄稿時には、新たな取り組みを紹介できればと思います。どうぞ叱咤激励の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

透析室便り(好きなもの)

腎臓内科 春田 隆秀

皆さん、久しぶりに寄稿させていただきます。

「私こと少し認知症が見え隠れする老人にも文章を依頼するとは認知症のリハビリ目的なのか？」と懐疑的、かつ自虐的な心情にもなりつつ書いてみます。

年寄りとは他人のことはどうでもよい、自分のことだけ主張するという傾向があり、私もその例外ではありませんので勝手に利己的に書き進めてみます。

振り返れば遠い昔、自分自身の好きであったもの、それは空港にあり、飛び始めたばかりのBOEING747(通称ジャンボジェット)、それ以前は華麗なスタイルが美しかったDC8などの飛行機、大型バイク、特にBMWの水平対向エンジンのリズムカルでかつ躍動的な響き、タンデムシートの後部を占めていた〇〇?フランスのジャック・プレヴェール詩集、小学校2年で読んだ宮澤賢治の全集、4年で読んだ中管助の「銀の匙」高校で読んだ大江健三郎の小説、生き物のように白煙、実は煤煙を吐きながら力強く進むSL、羅列に統一性もなく、枚挙に暇ありません。

中でも真夏の満点の星空の下、おそらくは白鳥座、こと座、わし座などが輝いていたのかもしれませんが、太平洋へ向かいまっすぐ延びた、宮崎県赤江の夜の滑走路には誘導灯がどこまでも連なり非日常の世界が開かれていました。その上を友人4名で夢を語りながら散歩した夜は良き思いでとなり一生忘れることもないと思われます。(ただし最近では不法侵入として逮捕か射殺されるかもしれないので要注意です。)

昔の羽田空港では真冬の星空の下(おそらくオリオン座など)整えられた鼻髭を蓄えたグレートキャプテンと思しき機長が制服とコートに身をつつま葉巻の紫煙を燻らせながらじっと出発の時を待機していた。彼の視線の先には先ほどのDC8が駐機しており、赤江の滑走路と同様に誘導灯が延びていた。あの機長は何を考えていたのだろうか?その間にも右翼の緑色、左翼の赤色、胴体後部の無色のpositioning lightを点滅させながら多くの人々の喜び、悲しみを乗せ美しいライトの航跡を曳きながら夜のしじまの中に離陸していったものです。(positioning lightは大日本帝国陸海軍の時代も同じです)その瞬間は余韻の残る美しい光景でありロマンもありました。しかし、現代は世間が明るくなりすぎ、ロマンも感じられるものではないような気がします。将来飛魚も進化したら人間の世界を真似て翼の先端にpositioningの蛍光を発するようになるかもしれません。

また、朝になると夜明けとともに朝もやの中を四発のジェットエンジンを発動し、発生した気流は一部陽炎のようにも見える中、エプロンから徐々にランウェイに向かいtaxingを始める747の機体もやがて昇り始める朝日の中に一段と映えて美しいと感じたものでした。このように飛行機と飛行場にはロマンを感じたものでしたが、やがてテクノロジーの進歩とともにBOEING747が無用の長物として扱われる時代がやってこようとは40年以上も前、誰も想像していなかったと思う。時代は進み続けるのであります。

話はまったく飛んでしまいましたが、宮澤賢治の詩で妹トシを悼んで綴った「永訣の朝」の中に印象的であったのはトシが賢治に対し「あめじゅとてちてけんじゃ」(雨雪をとってきてください賢にいさん)と書いてあった文に意味もわからず圧倒されたことを記憶しており、小学生が思わず同じ文章を3回ほど声に出してしまったことを覚えています。あまりにも印象的な言葉であり、ずっと記憶の片隅に永久保存されています。妹のトシが賢治に末期の水を頼む場面であったことは詩の最後についている注釈を読んで初めて理解できました。「銀河鉄道の夜」は内容を理解できなかったことは覚えています。

先に挙げた中勘介の「銀の匙」は古き良き日本の原風景が絵画のように言葉で描写されており、絶対に作者に会いたいと思ったものでした。

認知症の者が文章を書き始めると永遠に自分の好きなものだけ列挙していきます。

限りがないのでこのくらいで中座させていただきます。透析室には妄想癖のある人間も期間限定で在住しています。興味のある方は是非一度訪れてみましょう。

鹿児島県医師会会長賞（看護業務功労賞）を受賞して

外来看護師 山下 ひとみ

平成 29 年 6 月 17 日鹿児島県医師会会長賞（看護業務功労賞）の表彰をいただきました。

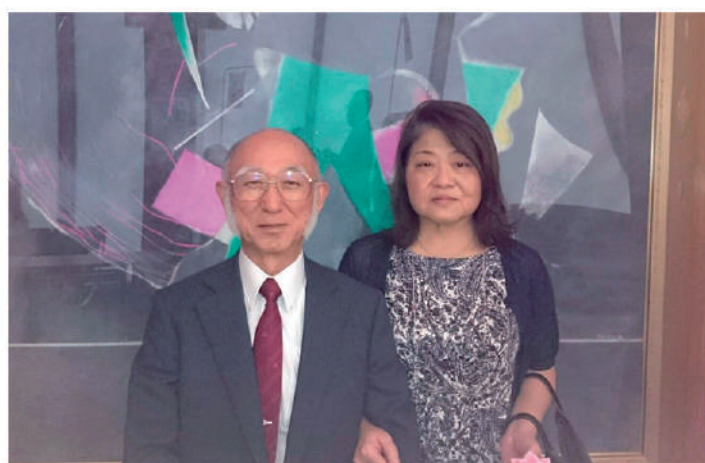
種子島医療センター（田上病院）に勤務して 30 数年過ぎてしまいました。沢山の先生方との出会い、スタッフの皆様を支えられた時間の積み重ねでいただけた賞だと痛感し感謝しております。（忘れていました！家族の協力もありがたいです。）いろいろな患者様との出会いもありました。最近では、まだ頑張るとるなーと言われることもしばしはあります。

昨年は病気知らずの私が入院、手術と看護される身になりました。看護の仕事は素敵で病んだものにとっては、本当に天使に感じる経験もしました。

これからも、皆様に少しでも笑顔で安心していただける看護師として貢献できるよう務めてまいります。

追伸

私 山下ひとみは看護の仕事がだ～い好きです。



県医師会館にて牧野正興医師と記念撮影



写真：上より 2 段目、左より 7 人目が山下ひとみさん

平成 28 年度 医学生実習スケジュール（離島・地域医療実習）

日程	参加者
① 3月14日(月)～3月18日(金) 男性 3名	東 大智・中嶋 俊輔・安武 祐貴
② 3月28日(月)～4月1日(金) 女性 3名	樋渡 未来・瀬戸山 志穂・市地 さくら
③ 4月11日(月)～4月15日(金) 女性 2人	川邊 真由・福田 佑香
④ 5月9日(月)～5月13日(金) 男性 1名 女性 1名	富田 実代・三宅 頌己 歯学部 男性 3名 (5/11 百合砂苑実習のみ)
⑤ 5月16日(月)～5月20日(金) 女性 2名	池田 真紀・榮鶴 ゆかり 歯学部 男性 2名 (5/18 百合砂苑実習のみ)
⑥ 5月30日(月)～6月3日(金) 女性 2名	甫立 美南子・萬浮 帆波 歯学部 女性 3名 (6/2 百合砂苑実習のみ)
⑦ 6月13日(月)～6月17日(金) 男性 3名	松野 志歩・玉城 倫・鬼塚 公介
⑧ 6月27日(月)～7月1日(金) 男性 3名	池田 良太・池畑 樹・福德 聡
8月29日(月)～9月1日(木) H28年鹿児島県地域枠医学生離島実習	学生 4名 宿舎 わらび苑 (医学生宿舎) 2年山田千裕 1年中島健太郎 1年 三重真未子 2年 國吉真歩 8/29 (月) 9:05 9/1 (木) 17:05

平成 28 年度 研修医受入スケジュール

		氏名	研修期間	希望診療科
5月	鹿児島共済会 南風病院	古川 淳一郎 (ふるかわ じゅんいちろう)	5/1 (日)～5/31 (火)	看護師寮 201号 整形外科 希望
6月	鹿児島共済会 南風病院	吉見 洋平 (よしみ ようへい)	6/1 (水)～6/30 (木)	看護師寮 201号 整形外科 希望
7月	鹿児島共済会 南風病院	瀬戸山 優 (せとやま ゆう)	7/1 (金)～7/31 (日)	マンション南風406号 小児科 希望
8月	鹿児島大学病院	松本 隼人 (まつもと はやと)	8/1 (月)～8/31 (水)	看護師寮 201号 小児科希望
8月	済生会 松山病院	大坪 治喜 (おおつぼ はるき)	8/16 (火)～8/30 (火)	研修医宿舎8号室 内科 希望
8月	鹿児島共済会 南風病院	小田 健太郎 (おだ けんたろう)	8/1 (月)～8/31 (水)	マンション南風406号 循環器科 希望
10月	鹿児島大学病院	鮫島 弘子 (さめしま ひろこ)	10/3 (月)～10/30 (日)	研修医宿舎8号室 内科 希望
12月	鹿児島医療センター	大江 将軍 (おおえ ゆきむら)	12/1 (木)～12/30 (金)	研修医宿舎8号室 麻酔科 希望

平成 29 年度 医学生実習スケジュール（離島・地域医療実習）

日程		参加者
①	H29年3月13日(月)～3月17日(金) 男性 3名	大薄 卓也・岩田 大輝・渡久地 朝匡
②	H29年3月27日(月)～3月31日(金) 女性 3名	原田 めぐみ・桑山 紗也華・今村 眞子
③	H29年4月10日(月)～4月14日(金) 男性 3名	神田 佳樹・赤星 光紀・武 義人
④	H29年4月24日(月)～4月28日(金) 男性 3名	大坪 稔拓・宇都 勇紀・和田 忠久
⑤	H29年5月15日(月)～5月19日(金) 女性 3名	下茂 由希子・大塚 祥子・章 玲佳
⑥	H29年5月29日(月)～6月2日(金) 男性 3名	杉原 亘・岩林 正明・野間口 一輝
⑦	H29年6月12日(月)～6月16日(金) 女性 3名	市富 優希・坂口 有里・草浦 香奈
⑧	H29年6月19日(月)～6月30日(金) 男性 1名	新潟大学 計良 拓夢 2週間実習
⑨	H29年6月26日(月)～6月30日(金) 男性 1名	渋谷 謙一
9月5日(火)～9月8日(金) 引率2 学生4		引率 根路銘先生 指宿先生
H29年度鹿児島県地域枠医学生離島実習		恵島 拓海 田畑 佑樹 山下 岳人 中田 元

平成 29 年度 研修医受入スケジュール H29年4月1日 現在

		氏名	研修期間	希望診療科
4月	鹿児島共済会 南風病院	島ノ江 研斗(しまのえ けんと)	4/1(土)～4/30(日)	循環器
5月	北海道大学病院	高島 明日香(たかはた あすか)	5/1(月)～5/25(木)	内科
	済生会 松山病院	堀田 裕輔(ほりた ゆうすけ)	5/15(月)～5/26(金)	整形外科
6月	鹿児島大学病院	田村 浩子(たむら ひろこ)	6/1(木)～6/30(金)	内科
6月～7月	鹿児島大学病院	濱田 実貴子(はまだ みきこ)	6/1(木)～7/28(金)	2ヶ月間
7月	鹿児島市医師会病院	小徳 羅漢(こたく らかん)	7/1(土)～7/28(金)	総合診療 内科
	鹿児島共済会 南風病院	上釜 浩平(うえかま こうへい)	7/1(土)～7/28(金)	整形外科
8月	北海道大学病院	伊藤 和(いとう なごみ)	7/30(日)～8/31(木)	外科 心臓血管外科
	鹿児島大学病院	里藺 弥々(さとぞの やや)	7/31(月)～8/31(木)	整形外科 循環器内科
	鹿児島大学病院	大園 千穂(おおぞの ちほ)	7/31(月)～8/31(木)	眼科 循環器内科
9月	鹿児島大学病院	沼田 絵理(ぬまた えり)	9/1(金)～9/30(土)	
	鹿児島大学病院	稲津 真穂人(いなつ まほと)	9/1(金)～9/30(土)	
	鹿児島大学病院	松岡 茂樹(まつおか しげき)	9/1(金)～9/30(土)	
12月	鹿児島大学病院	嵩寄 薫(しまさき かおる)	12/1(金)～12/30(土)	

田上病院
高尾尊身様

拝啓 長雨の候、高尾先生におかれましては、お変わりありませんでしょうか。

さて、先日はお忙しい中、貴院にて実習させていただきましたこと、誠にありがとうございました。

田上病院の先生方の優しく温かい人柄に触れ、とても有意義な実習をすることができました。

今後、より一層学業に励んで参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

略儀ではございますが、取り急ぎご挨拶申し上げます。

御礼申し上げます。

平成二十七年六月十六日 敬具

鹿児島大学医学部6年
小田原 致子

平成27年6月19日

田上病院
院長 高尾尊身先生

拝啓 梅雨の候、また村ご健勝のことお慶び申し上げます。

この度はお忙しい中、病院実習の機会を頂き誠にありがとうございます。

貴院の方々に外来見学の場を造り、貴重なお話を伺い、離島医療の良さ、抱えている問題等について知ることが出来、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。

将来、鹿児島に残り、医療に従事していく中で、今回の実習で得たことを生かしていきたいと思っております。

取り急ぎ、暑中をこめて心よりお礼申し上げます。

敬具

〒910-0053
鹿児島県鹿児島市中央町8-17
濱島 雅代

田上病院 御中

平成二十七年六月三日

劉 健龍

前略 先日は離島地域医療実習において、ご多忙中にもかかわらず丁寧なご指導と丁寧なご説明、誠にありがとうございました。

田上病院は想像していた島の病院と違っており、高尾先生も行われていたこと、驚き、また、遠隔医療も学びました。白間は一日にしか診察しない状態になりました。

田上病院での実習だけでなく、田上診療所、介護老人保健施設、訪問看護ステーション野の花、介護老人保健施設、からん苑を見学させていただきました。

医師と介護の連携、離島医療のプライマリケアを自分の目で見ることもできました。

医療者と患者との距離が非常に近いと感じました。種子島産科婦人科病院は妊婦さんの診察を断つことになったそうです。大学では経験できなかったことも実習中に経験することができました。

離島でも高齢化が進み、慢性疾患をもちいる方が多いと伺いました。急性疾患も対応が困難な場合が多いため、本島搬送し、島民が受けられる医療は、心づいてほしいと、お話を伺いました。

多岐にわたる実習が、変わる現状を聞き、その中での問題点について考えさせられました。

今後、この貴重な経験を活かし、精励して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

本筆ながら、貴院の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

敬具

拝啓 先日は離島実習において、ご多忙中にもかかわらず、ご親切なご指導、また種子島を楽しく過ごすためにたくさんのお助けをいただき、誠にありがとうございました。

失礼な言い方になってしまうかもしれませんが、田上病院は思っていたよりも大きな病院で、西之表市も本土にある普通の市と同じような町並みで、持っていた島のイメージが大きく変わりました。

島の人も明るく気さくな方ばかりで、訪問看護や外来でお会いした患者さん、そのご家族も心よくお話ししてくださいました。

また、あいにくの雨続きではありましたが、種子島の海岸や史跡、種子島宇宙センターにも行くことができましたし、高山先生のお計らいでおいしい海の幸をいただくことができました。

おかげ様で実習でも、それ以外の自由時間でも有意義な時間を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。

今後は、こちらの経験を心に留めて、これからの長い医師としての人生に活かすべく精励して参りますので、今後ともご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

本筆ではございますが、田上病院の皆様の一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

敬具

平成二十七年六月十八日 日高 薫

社会医療法人義順顕彰会 田上病院 御中

平成二十七年六月一日

森山 瑞葵

前略 先日は、離島・地域医療実習において、ご多忙中にもかかわらず、ご親切なご指導と丁寧なご説明、誠にありがとうございました。

最初に抱いていた離島医療のイメージと違い、行える医療に限りはないことを学びました。また、大学病院との最大の違いである患者さんとの距離が近いことを実習を通して学びました。

田上病院の実習だけでなく、田上診療所、訪問看護ステーション野の花、介護老人福祉施設 からん苑、介護老人保健施設 からん苑を見学させていただきました。

また、認知症などの疾患を持っていらっしゃる方とのコミュニケーションの機会もとても貴重な体験となりました。

おかげ様で、離島・地域医療に参する意識が一層高まり、理解を深めることができました。

今後は、離島・地域医療実習での貴重な体験を大いに活かし、精励して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

本筆ながら、貴院の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

敬具

平成 28 年 4 月 25 日
種子島医療センター
実習担当 飯田様

拝啓 春陽の候、27日ご健勝のことお慶び申し上げます。この度は、お忙しい中、離島・地域医療実習をさせて頂き、誠にありがとうございます。夜のお迎えなど、外來診療、関連施設への見学、貴院の設備を伺って、大変有意義な時間を過ごすことができました。貴院の研究マセド頂いたことを誇りに、長区にふたために今後より一層学業に取り組みたいと思っております。とり急ぎ、書中をもち、心より御礼申し上げます。敬具

鹿児島大学医学部 6年
川邊 由香
福田 拓

拝啓 先日は離島・地域医療実習にて御多忙の中にも関わらず、丁寧なご指導をいただき、ありがとうございました。貴院で実習させて頂いた以前は、離島・地域医療は、ひとりで、高齢者などを診る総合科という漠然としたイメージを持っており、一日の外來患者さんが約五百名、救急車の約五百台受け入れと聞いて、大変驚きました。また、小児科や、若者さんも数多く来院されており、先方が又又の患者さんに対して丁寧な相談、聴診をされるお姿が、とても印象的でした。大学病院では見ることのできない医療と体験をさせていただき、とても勉強になりました。飯田様には、実習先の送迎や、施設のご案内をしていただき、本当にありがとうございました。必要なお礼を、心より用意して下さり、実習期間中とても快適に過ごすことができました。本当に感謝申し上げます。最後に、お礼物を差し上げさせていただきます。最後、甲し訳ございませんでした。最後に、貴院での実習中大変お世話になりました。高尾先生、高山先生によりしくお伝えいただき、ありがとうございます。今後とも、今日の実習でのご指導いただき、感謝申し上げます。良い医師となるよう努力を怠りたくありません。略儀ながら、書中をもち、心より御礼申し上げます。敬具

平成 28 年 5 月 26 日
粟米鶴 中ノリ

種子島医療センター 実習担当
飯田様

拝啓 新緑の候、ますますご健勝のことお慶び申し上げます。この度は、お忙しい中、地域医療実習の機会を頂き、誠にありがとうございます。飯田様には、実習前から日程調整のご相談に乗って頂き、実習中も送り迎え、足りない備品の補充までして頂き、そして私の忘れたものを丁寧に届けて下さり、本当に、お世話になりました。飯田様の御陰で、充実した実習を行うことができました。高尾院長や、高山先生、中嶋先生、訪問看護師の高瀬さんにも、たいへんお世話になりました。今後より一層学業に取り組みたいと思っております。とり急ぎ、書中をもち、心より御礼申し上げます。敬具

平成 28 年 5 月 20 日
鹿児島大学医学部 池田真紀

種子島医療センター 林におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。先日はご多忙の中、実習にて大変お世話になりました。誠にありがとうございます。貴院の先生方には、ご多用中にもかかわらず、丁寧なご指導をいただき、大変感謝申し上げます。大学では学ぶことのできない一次医療から先進医療まで幅広く診療される種子島での医療の様子を見学することができて、大変勉強になりました。特に、夜間当直では、専門分野だけでなく、見学もさせていただき、施設を利用させていただき、お話しさせていただく時間も、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。貴院の先生方のような情熱を持って、医師になれよう、さらに学業に励んでまいります。懇切丁寧に見学や相談に応じていただき、ありがとうございました。飯田様にも何卒よろしくお願い申し上げます。敬具

平成 28 年 6 月 8 日
鹿児島大学医学部 6 年前 土美市子

種子島医療センター 林におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。先日は、実習にて大変お世話になりました。誠にありがとうございます。貴院の皆様には、ご多用中にもかかわらず、ご丁寧なご指導をいただき、心より感謝申し上げます。この度の実習では、一次医療から先進医療まで幅広く診療する種子島独特の医療と見ることができました。特に、夜間当直では、専門分野だけでなく、広く診療できる力が、大変感じ、大学とは違う一面を見ることになりました。また、高齢者を診る機会が多かったのも印象に残りました。より一層高齡社会が進む中で、福祉施設や保健施設が重要であると感じました。実際に施設を見学させていただいたのも、大変貴重な経験となりました。誠にありがとうございます。この実習での経験を今後に生かせるよう目標に向けて邁進してまいります。不筆ながら、種子島医療センター様のますますのご発展と皆様方のますますのご健勝を心より祈念申し上げます。敬具

平成 28 年 6 月 8 日
鹿児島大学医学部 6 年 萬寿帆波

種子島医療センター 林

拝啓 種子島医療センター 林におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。先日は、実習にて大変お世話になりました。誠にありがとうございます。貴院の皆様には、ご多用中にもかかわらず、ご丁寧なご指導をいただき、心より感謝申し上げます。この度の実習では、一次医療から先進医療まで幅広く診療する種子島独特の医療と見ることができました。特に、夜間当直では、専門分野だけでなく、広く診療できる力が、大変感じ、大学とは違う一面を見ることになりました。また、高齢者を診る機会が多かったのも印象に残りました。より一層高齡社会が進む中で、福祉施設や保健施設が重要であると感じました。実際に施設を見学させていただいたのも、大変貴重な経験となりました。誠にありがとうございます。この実習での経験を今後に生かせるよう目標に向けて邁進してまいります。不筆ながら、種子島医療センター様のますますのご発展と皆様方のますますのご健勝を心より祈念申し上げます。敬具

平成 28 年 6 月 8 日
鹿児島大学医学部 6 年 萬寿帆波

拝啓

深緑の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、離島地域医療実習の一環として5月15日から19日までの約一週間実習させて頂き誠にありがとうございました。種子島医療センターでは外観学や検査見学を通して最新の医療技術で本土の病院と殆ど変わりのない高度な医療を提供していることを学ぶことが出来ました。また、介護老人保健施設のわらび苑、介護老人福祉施設の百合砂苑では入所者様とお話する機会を設けて頂き高齢の患者様と如何にコミュニケーションをとっていくかの難しさを痛感しました。訪問看護ステーション野の花では、患者様本人だけでなく、ご家族の悩みに親身になり耳を傾け姿勢を学ばせて頂きました。とれも大学内でなかなか経験出来ない実習だったと思います。

種子島産婦人科医院では素晴らしい設備の中、種子島以外の病院とドクターヘリなどで連携している現状や、種子島で出産、育児をしていく上で強くサポートする体制について詳しく教わり、受診される産婦様や患者様がたかとても安心して医療を受けている姿を見ること出来ました。

加えて、種子島医療センターの先生かたと研修医の先生かたともお話することから離島ならではの魅力ややりがいも教えて頂き、歩道路に関する助言も頂き、とても有意義な一週間になりました。

最後になりましたが、この一週間の実習が良いためにもなるように、遠くからまた事務室の方を初めてお訪山の方にバリエ御礼申し上げます。季節の変わり目につき皆様のご健康を心にお祈り申し上げます。

敬具

平成29年 5月29日
鹿児島大学医学部医学科件大塚祥子

拝啓

先日は私どもの離島実習のために忙しい中ご協力頂き本当にありがとうございました。まずは心ならずもお礼を申し上げるのが遅くなりまして大変申し訳ありませんでした。さて種子島における離島実習では、鹿児島市内の病院では経験できないような貴重な体験をさせていただくことができました。

種子島医療センターの救急外来は、救急車がたらい回しにされるようなことはなく、どのような患者さんでも受け入れる態勢をとっている、というお話を先生から聞かせて頂きました。実際に見学させていただいたところ様々な疾患の患者さんが搬送されてきていました。このような病院の態勢は離島ならではのことで、私が研修医になった際などにはこのような環境で研修をさせていただくことができれば大変勉強になるだろうと感じました。救急外来も含めて様々な施設の見学をさせていただく中で、種子島医療センターでは島民のために最善の医療を提供するための様々な努力がいたるところでなされていると感じました。

また、医療センターのスタッフの方々につきましては患者さんとの距離が非常に近く病院内の食堂などであった際には気軽に話しをされておりとても暖かい環境であると感じました。

種子島医療センターだけに限らずその他の施設の見学もさせていただいたことも非常に勉強になったと思っております。

例えば種子島産婦人科医院では、常勤の産婦人科の先生が島内に一人しかいないという環境の中、島民のために働いておられる前田先生からご指導を頂きました。先生の患者さんに対する親切な接し方には心をうたれました。

また島内の老人ホームなどの施設では患者さんとの実際に話しをさせて頂きました。種子島の魅力などを教えて頂きました。島内の皆さんはとても種子島を好きであるのだということも改めて感じました。

さらに島内研修をさせていただいた際には、種子島宇宙センターの見学をしました。自分たちは打ち上げを見ることはできなかったので機会があればいつか見てみたい、と思いました。

また島内研修をさせていただく中で自然がとても綺麗な島だとも感じました。今後は先生方や多くのスタッフの皆様にご教授頂きましたこと、そして自ら体験いたしましたことを糧にして医師としての第一歩を踏み出していけたら幸いだと思っております。本当にありがとうございました。

敬具

鹿児島大学医学部医学科 六年
赤星光紀、神田佳樹、武義人

拝啓、初夏の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
先日はご多忙の中、地域実習の機会をいただき誠にありがとうございました。
初めて離島の医療を垣の当たりにし、大学の勉強、実習とは経験が異なることかと思いましたが、職員の方もお忙しい中、とても丁寧に対応していただき、ありがとうございました。飯田さんには毎日送り返しているお便り、バリエ御礼申し上げます。今回の経験を通じて、良い医師にはなれるようこれからも学業に励みます。
書面をもっとバリエ御礼申し上げます。
敬具
平成二十九年六月二十日
鹿児島大学医学部医学科六年
市富優人

拝啓、春陽の候、貴院ますますご発展のこととお慶び申し上げます。
先日は病院実習に下り、ご多忙中にも関わらず親切丁寧な御指導をいただき誠にありがとうございました。
貴院実習では、島ならではの患者さんとの深い関わり、全人的医療を学ぶことが出来ました。また、医師の数の少なさを、患者さんの医療へのアクセスのしづさを、島ならではの課題と、実際に見る機会がなかった。島の人々の温かさ、優しくも肌で感じ、鹿児島市に帰る頃にはもう少く種子島にいたいと感じる程でした。
おかげ様で、離島医療に対する意識が一層に高まり理解を深めることが出来ました。このような有意義な時間を提供して頂き、誠にありがとうございました。感謝申し上げます。
今後は貴院実習での貴重な体験を大切に活かし、精励してやる所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻りほどよろしくお願い申し上げます。
略儀ながら書中をもちまして御礼申し上げます。
敬具
平成二十九年三月二十五日
鹿児島大学医学部医学科
六年 大澤卓也
種子島医療センター
職員の方へ

前略

先日、五月開の離島・地域医療実習に向けて、ご多忙中にもかかわらず、懇切丁寧な御指導をいただき、誠にありがとうございました。五日間、素晴らしい実習期間となりました。医療センターのみなさまの離島医療に灯した思いに、飲み込み、感謝いたします。また、種子島の医療は私や他、以上以上に医療機器や介護・福祉の面で充実しており、不足がないように感じました。高尾院長のお話を伺ったのは、話には聞いていましたが、実際に現場で感じることができました。この間の経験を通して、離島医療に灯す意識が一層に高まり、理解を深めたいと感じました。実習生も遅く遅く迎えていただき、有難義な時間を提供していただき、誠にありがとうございます。以上、感謝申し上げます。

今後、種子島医療センターの貴重な体験を十分に活かし、精進を誓い、所存をいたします。なお、実習中お世話になりました。事務の件も、種子島直轄大村医師、野の花、中らび苑、田上診療所、百合砂苑、猿蟹川の皆様にもよくお伝えいたしました。お返事は、本業ながら、貴院の皆さんの業務を妨げないようにお祈り申し上げます。また、お言葉もありがとうございます。御礼申し上げます。

平成二十九年 五月二十日 下茂由希子

種子島医療センター 御中。

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

先日はお忙しい中、貴院で実習させていただきました。誠にありがとうございました。

また、貴院の先生方、スタッフの皆様のおかげで、種子島直轄大村医師、野の花、百合砂苑、田上診療所、矢王工房 猿蟹川、山崎死蔵御殿からいろいろなお話を伺い、大変お話しになりました。

特に飯田様には、宿舎への送迎も含めて、様々な面で親切にしていただき、とても感謝しております。

種子島での離島実習に加えて、ロケットの打ち上げを間近で見ることができたことは、貴重な経験になりました。

今後、より一層学習に励んで参ります。

略儀ではございますが、取り急ぎ書中にて御礼申し上げます。

平成二十九年 五月六日 敬具
鹿児島大学 医学部 六年 岩林 正明
杉原 直 野間口 一輝

拝啓 陽春の候、若草が萌えたり春も深まるといふ頃、誠にありがとうございました。先日はお忙しい中、離島医療実習をさせていただきました。誠にありがとうございました。

この間の実習で、一人を診るという経験を、感じたことが、最も大きな収穫でした。島の気候も、島独自の雰囲気も感じられました。また、様々な医療施設や実習生、各地域の雰囲気や役割も実感できました。限られた中で、実習に、入所者やスタッフのお話をいただき、良い経験となりました。

医師の御指導、この間には大変お世話になりました。医師が少ないという点もあり、大変お世話になりました。自分たちの少人数で、責任の大きさを感じました。

お忙しい中、このような機会をいただき、誠にありがとうございました。先生方のように、熱意を持って御指導のように精進したいと思います。

最後はありがとうございました。高山先生をはじめとする先生方、飯田さんをはじめとするスタッフの皆様、実習に協力してくださった方々にお礼申し上げます。

謹白

平成二十九年 四月十日
鹿児島大学 医学部 医学科 六年 今村 真子

拝啓 早春の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

先般の種子島実習の際、高尾院長先生、高山千史先生はじめ種子島医療センターの皆様にお忙しい中、懇切丁寧な御指導をいただき、誠にありがとうございました。お返事は、本業ながら、貴院の皆さんの業務を妨げないようにお祈り申し上げます。また、お言葉もありがとうございます。御礼申し上げます。

種子島医療センター

平成二十九年 三月二十日
鹿児島大学 医学部 上谷田 大輝

拝啓

新緑が目にも鮮やかな季節を迎えました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

先日、離島・地域医療実習に、大変お世話になりました。種子島に、お話をいただき、大変お話しになりました。

種子島に、お話をいただき、大変お話しになりました。種子島に、お話をいただき、大変お話しになりました。

今後、より一層学習に励んで参ります。

略儀ではございますが、取り急ぎ書中にて御礼申し上げます。

平成二十九年 5月7日 敬具
大坪 総祐

種子島医療センターの研修1ヶ月間を終えて

鹿児島大学病院 研修医2年目 川村 浩子

今回、研修医の地域医療研修として種子島医療センターで1ヶ月間研修させていただきました。私は出身地・出身大学が鹿児島ではないため、鹿児島の離島に1ヶ月間住んでみたいと思い種子島医療センターを選びました。

種子島医療センターでの研修内容としては地域医療研修としての訪問看護、往診、訪問リハ、家屋調査、介護保険審査、診療所見学、デイケア見学、産婦人科医院研修、院内研修としては往来内科医を希望しているため内科を中心に内科外来・病棟・救急外来と幅広く研修させていただきました。最も印象に残っているのは家屋具査でのST・OTさんの視点です。トイレの便座から床までの高さ、お風呂の深さを測定されていて、私は玄関・室内の段差にしか気付くことができなかつたのでとても勉強になりました。今後は家旅背景だけでなく、実際の生活状況も含めて退院に向けた治療計画を立てていこうと思います。院内では、想像以上に幅広い疾患を経験させていただきましたことができました。種子島医療センターは島にとっては最後の砦であり、院内で対応できない疾患であっても一度は診ることになります。現時点で島内での治療可能かどうかだけでなく、急変時まで見据えて判断しなければならないということを痛感しました。田上寛容先生を初め内科の先生方には手厚くご指導いただきありがとうございました。

またプライベートではロケット見学、サーフィン、シーカヤック、SUP、ボルダリング、トンボ玉作り、屋久島の白谷雲水郷散策などすべてが初めての体験でとても充実した週末を送ることができました。種子島の方は気さくで明るい方が多く、飲み屋で話しかけてくださり嬉しかったです。サーフィンは想像以上に難しく波に遊ばれて終わりでしたが、海から上がった後の疲労感が心地よくまた海に入りたいと思う不思議なスポーツでした。実際に1ヶ月間種子島で生活してみて、陸続きでないという不便さを感じることはありましたが鹿児島市内からのアクセスも良く、海が綺麗で空が開けていてとても開放的な明るい島だなと思いました。想像以上に楽しい1ヶ月間でした。今後、内科医として一人前になって種子島の医療に少しでも貢献することができるよう日々成長していこうと思います。1ヶ月間ありがとうございました。

種子島医療センターの研修を終えて

研修医 大江 将軍

種子島医療センターでの研修が終わり早くも2ヶ月経ちました。現在は鹿児島医療センターで研修を致しております。慌ただしく喧騒な毎日を過ごし月日だけがどんどん過ぎております。種子島で過ごした日々が本当に懐かしいです。今思い返せば種子島でもっとやりたかった事(医師としての研修以外の事も含めて)をやっておけばよかったなという後悔に近い気持ちと結構やりたい事をやりまくったなという達成感が相混じった不思議な気持ちになっております。地域医療という枠で種子島に赴きましたが地域での医療の本質は都市圏に比しそんなに変わらないがそこで生活している方々の医療に対する期待や感謝は都市圏より遥かに強くやりがいや必要とされる度合いは非常にあるんだろうかと感じました。一方で医療資源の不足や様々な疾患への理解の少なさが故に都市圏では凡そ考えられない程重篤になっている方々それを何とか支えようと奮闘する家族の力も垣間見ました。もっと周知出来ればもっと軽症で病院にかかりより良い元気な生活が出来るのではなからうか、即ち予防医学の介入する余地が大いにあるのではと考えました。一つの病院だけの努力でなく自治体や地域企業を巻き込みもっと大きな、面白い事を種子島でしてみたいなと心の中で妄想しております。そのためにこれからもっともっと医学を学び医療を学び政治や経済などあらゆる方面へ興味を持ち邁進せねばと襟を正す思いでいっぱいです。

種子島で師と仰ぎました高山先生、いつも相手をしてくれた整形外科の高野、音羽両先生、無理な依頼を聞き届けくださいました飯田さん、毎日栄養を与えて頂きましたレストランの皆様、そして今でもお世話になりっぱなしの猿渡先生…他にもっと多くの方々に会い皆様の色んな考えを知り自分の至らない所を見つけより良くなるための経験を頂きました。本当にありがとうございました。たった一ヵ月されど一ヵ月、私にとって何年分もの素晴らしい日々を過ごさせてもらいました！また行きたいな、種子島！

ちなみに当初の目標、種子島の言葉を知るにイントネーションの修得で終わってしまいました、また行かねばですね！

種子島医療センターでの実習を終えて

南風病院 研修医2年目 小田 健太郎
(現 今給黎病院神経内科)

2016年8月、南風病院研修医2年目に地域医療として種子島医療センター循環器内科で1か月間研修をさせていただきました。僕は小学生のころ父親の仕事の関係で何度か種子島に来たこともあり、そこでどのような医療が行われているのかとても興味がありこの病院を選ばせていただきました。

まず驚いたのが種子島医療センターの設備の充実性です。MRIやCTを配備し、透析室まであり、様々な疾患に対するアプローチが可能です。また、地域間の連携もかなり密接に行われており、島内で対応できない症例に関しては、本土の病院とすぐに連絡を取り合える体制が確立しています。また訪問看護や、訪問リハビリテーション、家屋調査、屋久島や中種子の診療所に赴いたり島内や周辺地域での医療もかなり充実しており、それぞれを実際に経験する中で、種子島でのチーム医療の質の高さを実感することができました。

また、最も肌で感じるのができたのが、職場の温かい雰囲気です。入院患者も多く、救急病院とこのことで急性期疾患の患者さんが多い中で、職員の方々が生き生きとしており、そのような雰囲気の中で研修ができたのはとても気持ちのいいものでした。研修だけでなく休みの日や仕事終わりにみんなで飲みに行ったり、祭りに参加したり、海で泳いだりたくさん思い出を作ることができました。

今後種子島で得た経験を生かし地域に密着した医療を行うことができればと思います。機会があればまた種子島で医療に携われたらと思います。

種子島医療センターの研修を終えて

済生会松山病院 研修医2年目 堀田 裕輔

今回、種子島医療センターで2週間、非常に充実した地域研修を送らせていただきました。研修期間中には、地域医療では欠かせない、訪問看護、往診、訪問リハ、家屋調査を拝見することができました。特に訪問リハに関しては、リハビリ自体を初めから終わりまで拝見することが初めてだったので、普段何気なくオーダーしていたリハビリを見学することができ非常に有意義な体験となりました。また、家屋調査についても学ぶことができました。家屋調査という言葉自体を初めて聞いたのですが、患者さんが退院後の生活をより良い状態で送ることができるよう工夫されていて、感銘を受けました。

病院では、整形外科で研修をしました。整形外科の手術で初めての執刀医を務めさせていただいたことは、整形外科医になる私にとって今後の糧となる良い経験となりました。指導医の高野先生と音羽先生は、非常に優しく、指導も丁寧で沢山のことを学ばさせていただきました。厚く御礼を申し上げます。

プライベートでは、種子島の観光、ダイビング、屋久島登山、職員の方々との飲み会と非常に充実した生活を送らせていただきました。種子島の方々はとても暖かく、外から来た私と交流を深めていただき、感謝の念に絶えません。

わずか2週間という短い期間ではありましたが、公私ともに大変充実した地域研修でした。帰りたくないというのが本音ではありますが、この研修で経験したことをこれからの私の医者人生に活かし、患者様に還元することが種子島の方々への恩返しになると思います。私の地域研修に携わっていただいた、スタッフの方々に厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

ボランティア受け入れ報告

看護局長 山口 智代子

種子島医療センターでは、地域に根ざした病院として、地域住民などによるボランティアを積極的に受け入れ、専門性を生かしたボランティア活動を行っていただいています。

ボランティアの方々の笑顔とふれあいにより、患者様の心の安らぎがもたらされ、大きな支えになっています。

めいろうこども園七夕事業所訪問

めいろうこども園の園児達が、手作りの大きな七夕飾りを持って、訪問して下さいました。大きな歌声に患者様や病院スタッフも思わず笑顔。毎年、有難うございます。



正面玄関の花々

心を癒す美しい花々

田上那枝さん・加世田佳子さん・名越駿三さんが、種子島医療センター正面玄関や踊り場、花壇を季節の花々で美しく飾って下さいます。入院生活の中で、季節を感じる事が出来ると患者様に喜んでいただいております。自宅で丹精込めて育てた花々をお届けいただきまして、有難うございます。



階段昇降時に階段踊り場の花に癒されます。

クリスマスキャロル

12月24日西之表基督協会の皆様が、種子島医療センターに素敵な讃美歌を届けて下さいました。皆さんで「きよしこの夜」を合唱し、池田先生からいただいた手作りのコマをテーブルで回し、昔を思い出していました。素敵な歌を有難うございました。



院内保育所・クリスマスおゆうぎ会

院内保育所の園児が、となりのトトロ、アンパンマンの衣装で、元気良く歌とおゆうぎを披露してくれました。観客の中にご両親を見つけて、泣き出してしまう子供たちも・・・とても可愛いクリスマス会でした。

